抗議と苦情の電話をしよう!

厚木爆同

【発行】
厚木基地爆音防止期成同盟
発行責任者　石郷岡 忠男
事務所　大和市桜森3-5-3
フォント1F
TEL 046-240-7450
FAX 046-261-5615
bakudou@kanagawa.email.ne.jp

平和で静かな空を取り返しましょう!
―新年にあたって―

厚木基地爆音防止期成同盟
委員長　石郷岡 忠男

２０１７年、厚木基地が大きく変わる年になりました。米空母ミッドウェイが横須賀を「母港」とした事で厚木基地が艦載機のホームベースとなり、現在に至っています。

当時、代替訓練施設の硫黄島もない事で、艦載機の訓練は全て厚木基地で行われていました。

年間の騒音回数は、４万回以上に及びました。１９６０年に航空機騒音に悩んでいた住民が厚木基地爆音防止期成同盟を起ち上げました。（通称：爆同）空母の母港化にともない、騒音は増々激しさを増し、爆同が中心になって基地の北側に3日間座り込みを行い、航空機の飛行を完全に止める事に成功したのです。

国もさすがにことの重大さを認識して、様々な対策を施しました。一つが、航空機の飛行規制案の提示、そして、ＮＨＫ受信料の助成制度の始まりです。その後、代替訓練施設として硫黄島が完成し、騒音回数こそ減ったものの、依然として2万回以上の騒音が記録されています。

冒頭でも延べた様に、昨年は、それが大きく変わろうとしておりました。厚木基地をホームベースとしている艦載機が山口県岩国基地へ移駐することが実行される年になったからです。現在2部隊を残し、半分以上の艦載機が移駐を済ましています。この2部隊も今年の5月には移駐が終わります。

爆同は、昔から、米軍基地のたらい回しには絶対反対の立場をとっております。だから今回の艦載機岩国移駐にも、騒音のたらい回しだとして反対の立場を貫いて参りました。これからも、この態度は変わる事はありません。

艦載機の移駐が済んだ後、果たして、静かな空は還ってくるのでしょうか?私には、どうしてもそう思われないのです。と云うのも、厚木基地の司令官の談話の中で、「厚木基地は、依然として重要な施設であり、これからも利用していく」と言っているからです。まして、厚木基地は、設備が整っているし、横須賀も近い、基地の連携もとりやすいとなれば、手放したくないというのも「うなずけます。」

最近は、艦載機だけでなく、外来機とと呼ばれる岩国の海兵隊機のＦＡ18や、空中給油機のノーリアー等も厚木基地に来ています。

私達は、こんな時だからこそ、気を引き締めて、厚木基地の動向に注意を払わなくてはいけない時だと考えています。

厚木爆同も、間もなく60周年を迎えます。本来、住民運動がこんなに長く続くこと自体おかしなことで、早くこの問題が解決して、平和で静かな空が還って来る様に、これからも頑張って行きたいと考えています。

今年も、それぞれと協力して目標に向かって頑張りましょう。

ＮＨＫ受信料問題 政府交渉を行う

去る、1月24日、厚木爆同は政府・防衛相に対して、「ＮＨＫ放送受信料補助制度の廃止撤回と、更なる制度の充実を求める要請」を、第五次厚木基地爆音訴訟団、全国基地連の仲間とともに行いました。今後、さらに検討を深めていきます。

以下、当日の要請趣旨です。

内閣総理大臣　安倍　晋三　様
防衛大臣　小野寺五典　様
厚木基地爆音防止期成同盟
委員長　石郷岡　忠男

ＮＨＫ放送受信料補助制度の廃止撤回と、更なる制度の充実について（要請）

要請趣旨

厚木基地周辺住民は、米空母艦載機や自衛隊機による激しい離着陸訓練により日夜激烈な爆音被害を受け耐え難い状況にあります。

このような航空機爆音の激しい生活環境の中にあっては、テレビの音がかき消され、テレビを観ることができない状況が続き、心身ともに多大なストレスをもたらしています。

私たちが組織を結成した１９６０年からテレビ・ラジオの受信料減免を求めて陳情と抗議行動を繰り返し行ってきた結果、１９６４年5月にラジオ受信料の全額免除をそしてテレビ受信料の半額免除区域の指定を１９７０年4月に大和市全域に拡大させ、基地から東西1㎞、南北5㎞を半額免除区域となりました。

このように国は、航空機によりテレビ放送に聴取障害があるとしてＮＨＫ受信料の半額助成を行ってきました。

このような中、突如として発表されたＮＨＫ受信料の助成制度の廃止を含めた大きな見直しは、日頃より様々な負担を強いられている基地周辺住民への影響は多大であり到底納得できるものではありません。

防衛省は、ＮＨＫ受信料の助成制度の見直しを撤回するとともに、広範囲で騒音被害を受けている実態を踏まえＮＨＫ受信料助成対象区域の拡大と全額免除とする補助制度の内容の充実をはかるよう要請します。

1月28日新会員歓迎会　石郷岡委員長あいさつ

1月24日NHK受信料問題・政府交渉

オスプレイの飛来監視を行う！

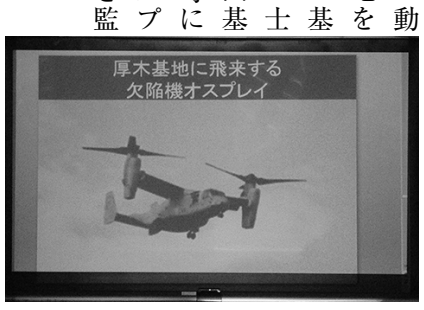
1月12日～16日　オスプレイ飛来監視行動

1月12日～16日、オスプレイの飛来監視行動を行いました。沖縄県において、米軍ヘリコプターの緊急着陸が連日のように繰り返され、ヘリコプターの墜落事故への不安が高まっている中、1月12日～19日まで静岡県の東富士演習場と山梨県の北富士演習場においてヘリコプターモードで飛行する欠陥機といわれている米海軍のオスプレイ6機が訓練を行うことを通告して来ました。

このような状況を受けて1月12日～16日まで厚木基地北側のフェンス前で、厚木基地爆音期成同盟をはじめ第五次厚木基地爆音訴訟原告団、県央共闘会議、神奈川平和運動センターの4団体は、オスプレイの厚木基地への監視行動を行いました。

寒波による大変寒い中での行動にも関わらず、多くの皆さんが飛来監視行動に参加してくれました。

今回の訓練通告に伴うオスプレイの飛来監視行動は、厚木基地をはじめ横田基地、東・北富士演習場、岩国基地などで同時に取り組みオスプレイの飛来を監視しました。



支部からこんにちは！

大和北第二支部

支部長　三澤　金一郎

私は、昭和47年（1972年）に、都内の大気汚染から逃れて大和市の中央林間に移転して来ました。誕生間もない赤児が喘息を発症した難を逃れる為でした。まだまだ武蔵野の影が残る静かな環境の筈でした。

転居後、数日を経ないで仕事先に緊急連絡があり、救急車で搬送されたとの事、爆音でひきつけを起こしたのが原因とのことでしたが、成り立ての親にとっては、まことに過酷な経験であった。

その後、数年を経て西鶴間に転居し、町内会長等20年以上地元のお手伝いを続けて来ました。

厚木爆同に入会させて戴いたのは、丁度、町内会会長を退任する直前で、四次訴訟の立ち上げの頃と記憶をしております。それまでは、当該の名称は聞いたことがあると云う程度の認識で、当然、組織形態も活動内容も知らなかったと云えます。

半面、町内会全員が組織で入会している所も有ると云う事を後日知りました。この夜「大和北第二支部長」と成りましたが、未だ厚木爆同と第五次訴訟団とを混同している節があり、支部長としての範囲を正確には認識していないレベルです。

今年二月にこれ等の疑問をふまえて役員会を開きます。改めてご報告致します。

新会員の歓迎会を開催

―学習会と交流会―

2017年に、厚木基地爆音防止期成同盟に入会された71世帯の会員の皆さんの歓迎会（学習会と交流会）を開催しました。当日は、13世帯から新会員の皆さんが出席されました。歓迎会の第一部としては、石郷岡爆同委員長の新会員歓迎のあいさつの後、厚木基地爆音防止期成同盟の活動の歴史や厚木基地の実態などを写真（パワーポイント）を活用して説明致しました。

また、第二部の交流会では新会員の皆さん、新会員の所属支部役員、本部役員出席のもと、支部運営や爆音解消、訴訟勝利などについて活発な意見交換を行いました。歓迎会で、新会員の皆様からいただいた大変貴重な意見や要望をこれからの活動に活かしていきます。

1月28日新会員歓迎会

1月28日新会員歓迎会

1月28日新会員歓迎会・爆同のたたかいの歴史

厚木爆同調査部近況

会報編集部から、調査部が何をしているか、皆さんに知らせてほしいという依頼を受けました。簡単にいうと、爆同会員の議員さんなどの協力により各市町村発行の基地白書の収集は、いちおう完了しました。しかし十数件の資料類に書かれている事柄を爆同としての活動に役立てるためには、それらを一通り調査部として分析し、一本の報告にまとめようということになり、騒音と各種事故を主題に作業中です。

さらに差し迫った空母艦載機の岩国移駐関連の諸問題に関して、爆同の主体を明らかにした運動を推進するための調査があります。いずれも調査部報告を仕上げるに至っておらず、とくに後者について急がなければなりません。

調査部長としての私の不慣れの問題もあり、ご容赦下さい。この間の短い経験の私の感想としては、自動車練習場に通っているような感じとでも言えるでしょうか。頭では分かっているつもりでも、体がスムースに動くようになるには、自分のことながら実際活動と諸関係にもっと通じなければならない。爆同という大型トラックに乗って高速道路を走れるようになるには、高齢者にはきつい問題もありますが、がんばろうと思いますので、よろしくお願いします。

（調査部長・山本健治）

厚木爆同ホームページを活用しましょう

アドレス
https://www.atsugibakudou.com/